

集合型TEKU-TEKU2024★小石川・神楽坂周辺（活動記録+評価結果）

企 画■神田川沿いの街を歩く（その3）～小石川・神楽坂周辺～

日 時■2024年 1月14日（日）13時30分～17時30分（集合型まち歩き）

コース■後楽園駅メトロM～★礪川公園+東京都戦没者霊苑～北野神社～★凸版印刷本社+印刷博物館・ギャラリー～アトラス江戸川アパートメント（同潤会江戸川アパート建替事業）～三年坂～軽子坂～神楽横丁～★東京理科大／PORTA神楽坂～見番横丁～毘沙門天～本多横丁～★かくれんぼ横丁+芸者新道+見返り横丁+兵庫横丁+酔石横丁～瓢箪坂～★赤城神社+あかぎカフェ～あゆみギャラリー+形のない図書館～★新潮社+la-kagu～矢来能楽堂～シェアハウス矢来町～UNPLAN神楽坂（★＝評価対象）

参加者■○大竹 亮、井手幸人、伊藤圭子、上野朋子、江越みほ、栗原 徹、杉谷知子、野中るみ子、原 久子、藤井正男、藤井幹也*、古里 実、村松紀明、森 正代、八坂悦朗、山下浩一、山根純一、横田宣明（以上18名、*別日参加、○コーディネーター）

企画主旨■8月の作家アトリエ企画、10月の目白台・早稲田企画に続き、今回は神田川シリーズの3回目として、さらに下流の小石川・神楽坂周辺を歩きます。北岸は台地の上の小石川地区の高級住宅地で、南岸は緩やかな斜面に連なる神楽坂の商店街という対照的な2つの街ですが、いずれも都市化・産業化が進んで、業務地区や繁華街となっています。北岸では、急な崖地を利用した礪川公園に整備された戦没者霊苑と、神田川沿いの本社ビルに博物館や文化ホールを併設した凸版印刷を訪問します。南岸では、特徴的な景観を有する神楽坂の路地を歩きながら、理科大PORTAや赤城神社+カフェ、新潮社la-kaguなど、伝統組織が設けた新しい施設群を巡ります。神田川近くの街を歩きながら、施設併設型のまちづくりについて一緒に考えてみましょう。

1 ■礪川公園+東京都戦没者霊苑

評価:3.00 内訳:AAABBBBBBBBBCCCC-

評価A◆戦没者霊苑という暗く重い施設だが、設計者相田武文のデザインによって明るく開放的な空間となっている。後楽園駅、礪川公園と連続性があり、利用者の憩いの場となっている。

評価A◆神田川北岸の急峻な崖地形を生かした礪川公園は、駅に直接面して通り抜けが出来、見晴らしもよく、噴水や階段の装飾も凝っている。戦没者霊苑は端正なモダニズムデザインで、展示室の内容も意義深い。

評価A◆礪川公園それ自体についての50年余り前のおぼろな記憶では、もっと平坦な公園だったと勘違いしていました。70年安保反対・大学管理法反対のデモに出かける集合地点でした。「礪川」という呼称が「小石川」の漢語であると当時から知っていました。古の知識人の素養を偲ばせる良い名称です。戦没者霊苑は初めて訪ねました。「新しい戦前」が迫りつつある昨今、慰霊の意味を改めてかみしめました。

評価B◆礪川公園は土地の高低差を利用した造りとなっており、子供たちが楽しそうに遊んでいた。戦没者霊苑は霊苑部分、展示室部分ともに意外と斬新な建築物でした。

評価B◆駅前の公開空地+親子の遊び場として素晴らしい。東京都戦没者霊苑、相田さんらしいデザインですね。

評価B◆高低差を活かした通り抜けのできる公園整備が良い。相田武文設計の東京都戦没者霊苑は、芝浦工大宮キャンパスの斎藤記念館や鴻巣市川里ふるさと館によく似ていて驚いた。建築家は同じデザインコードを多用するのだと納得してしまった。

評価B◆公園として通り抜けできるのがよい。

評価B◆資料館の展示が興味深かった。



高低差を生かした礪川公園と後楽園駅メトロM(右)



礪川公園上の東京都戦没者霊苑(1988年/相田武文)

評価B◆市中の公園に西洋の様式美を求めていた頃の公園の面影を残していて、品格を感じる。また後樂園駅からの高低差のない動線が確保され人通りが多く、子供たちもたくさん遊んでいる。公園は良い。一方、霊苑はそれなりにお金がかかっていて上等だが、人がいない。不敬と言われるかもしれないが、子供が鬼ごっこをしている施設の在り方が私は好きだ。

評価B◆昔ながらの公園という感じで、今の公園ニーズに併せた改修を考えても良いのではと思いました。戦没者霊苑の広場が、子供の遊び場となっていたのが象徴的で、都市内のオープンスペースをどう活用していくか、考える必要があると思います。

評価B◆後樂園の駅ビルと公園との関係はなかなか良いと思う。東京都戦没者霊苑は空間としては悪くないが、どういう使われ方をするのかイメージできなかった。

評価C◆児童公園、慰霊施設、通り抜け通路が一体となっていることで賑わいのある場となっている一方で、多機能としたためか全体としてのまとまりに欠けている感じがある。

評価C◆公園はあまり目立たない。霊苑はもう少しきれいにしてほしい。

評価C◆毎日利用する駅のそばで存在は知っていたが、今回の企画がなければ訪れなかったと思う。もっと多くの人に認識してもらいたい場所や展示ですが、あまりにも目立たなすぎる。それとも静かなままのほうが慰霊のためによいのだろうか。

2■凸版印刷本社+印刷博物館・ギャラリー・ショップ等） 評価:3.13 内訳:AAABBBBBBBBBBCC

評価A◆印刷業界の代表的企業が、こうした文化発信の場を設けていることは貴重。有料の印刷博物館と無料のギャラリー（当日は世界のブックデザイン展）+楽しいミュージアムショップの組み合わせもいい。

評価A◆季節柄か公開空地に憩う人は居ず、一方で訪問したのが昼時でもあったため、2階のカフェは行列が出るほど多くの人々が利用していた。

評価A◆公開空地が広々していること。2階食堂が地域食堂になっていて、近所のお年寄りが食べにきていた。

評価B◆街の中の文化的オアシスのよう。限られた敷地の中でよく考えてデザインされ、お金も使い、心を込めて運営されているようだ。一方、裏側の公開空地に愛情が感じられない。夏にはお祭りなど催されているのだろうか。人流を裏側に導く工夫がほしい。

評価B◆公開空地は工夫されていますが、博物館の裏側が閉鎖的。内部空間は開放感があり、展示内容も充実。

評価B◆印刷博物館の展示が素晴らしい。大手印刷会社ならではの文化情報の発信力に感心した。公開空地に面する建築デザインは今一つかなと思う。

評価B◆建物の印象はありませんが、ミュージアムの展示では、紙媒体と製本の意義を大いに感じました。

評価B◆施設の要であるホールを体験していませんので、あまり確定的な評価は控えたいと思います。ギャラリーはなかなか魅力的でしたが、もう少しゆとりを持ったスペースならもっと寛げたのに、と思います。

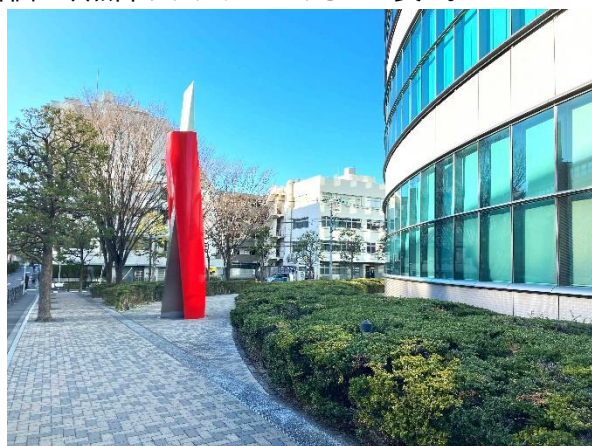
評価B◆空間の作り方や展示内容は秀逸でした。しかしながら、楕円形のオフィス部分の曲線を活かしているようで、一方付け足したかのような印象もぬぐえませんでした。

評価B◆密集市街地の再開発で高層ビル建設により、公開空地が広く公園化されている。

評価B◆印刷業者っていったい今そうなる？という疑問はあるものの、こういう機会がなければ来なかった。本屋次々閉店、紙媒体消滅の中で、いろいろ模索しているのがわかる。

評価B◆印刷業界が傾いている昨今、印刷博物館とギャラリーは貴重な場だと感じる。

評価B◆無料ギャラリーがあるのが良い。



神田川に面する凸版印刷本社ビルと提供緑地



内部には印刷博物館、ホール、ギャラリーを併設

評価B◆さすが大手企業。こんな施設があったのですね。

評価C◆ホールエントランス、ホール展示、ギャラリーの動線が整理しきれないように感じ、少々残念でした。
アール型の特徴的な形をとったためでしょうか。

評価C◆本社ビルに博物館やギャラリー、ホールを併設するという構成は面白いが、どの駅からも距離があるなどアクセスが悪く、周辺との関係も希薄に見える。

3 ■東京理科大／PORTA神楽坂

評価:3.25 内訳:AAAABBBBBBBBBBCC

評価A◆市街地に在る大学のあるべき姿の一例を示している。不動産を活用し、学食の意味合いを持たせた開放的食堂街を整備するとか、都市防災性能の向上に知恵を貸すとか。神楽坂は、民度も高く文化的に高い水準にあると思った。

評価A◆大学へのゲート的な使い方と、商店街の連続性を両立している。半屋外としたビルの計画も良いと思う。

評価A◆大学キャンパスが神楽坂の商店街に立体的或いは平面的・モザイク状に同居してるのに面白さを感じた。

評価A◆神楽坂本通りに面した大きな建物だが、高さを抑えて壁面線を揃え、通り抜けと回遊性を確保している。

酔石横丁奥の防災用通路を確保した校舎なども、街なかキャンパスという理科大の姿勢が評価できる。

評価B◆建物は通り抜けが出来る構造で理科大の学生が行き来していた。どの店舗も賑わっていて活気があった。

評価B◆コンパクトな空間にリーズナブルな店舗が入っていて良いと思いました。

評価B◆PORTA神楽坂の低層部に設けられた大学側と神楽坂がつながる通り抜け空間はいいですね。

評価B◆校舎の低層部を商業施設とし、裏に通り抜けられるようにしているのは非常に良いと思う。

評価B◆大学の校舎の一つであるとは知らなかった。通り抜けできるのが良い。

評価B◆通り抜けができることは良い。

評価B◆理科大の施設だなんて知りませんでした。

評価B◆これからの大学の生き残りのために、多角経営が必要と感じるビルでした。

評価B◆東京理科大の狙いがもう一つわかりません。神楽坂地域で何を指そうとしているのでしょうか？ 大都会の中の裏路地の奥の狭いキャンパスで、教授たちは何を教え、学生たちは何を学ぶとイメージしているのか、思い当たりませんでした。街の中に積極的に出て行こうとする姿勢だけは感じられましたが。

評価B◆建物は一般的と感じました。1階のお店ですが、せっかく理科大ですから、もう少しユニークなものを呼んで来られればよかったと感じました。

評価C◆都心部にある理科大の分散校舎の一部で、神楽坂に面して学生が利用できる店舗が入っている。神楽坂通りの賑わいを演出している。

評価C◆東京理科大学はこんなところにあったのか。PORTAは神楽坂にふさわしいか？



神楽坂本通りに面する理科大PORTA(2011年)



キャンパスへの通路を兼ねるPORTAの吹き抜け

4 ■神楽坂の路地景観(かくれんぼ横丁+芸者新道+

見返り横丁+兵庫横丁+酔石横丁等) 評価:4.38 内訳:AAAAAAAAAAAAABBBBBB

評価A◆路地というものの魅力をもっと味わうことが出来る空間。行き止まりか抜けられるか、わくわくしながら、やっとすれ違う狭さも楽しい。地区計画により、歴史的景観と防災性向上の両立が期待される。

評価A◆まちづくりニュースで紹介されている地区計画制度の取組により、歴史的な路地空間の景観保全がちゃんと実現していることがすごい。42条3項道路も久しぶりに見た。

評価A◆路地が残されつつあることはよかったです。

- 評価A◆どの横丁にも多くの人が入り込み、行列の出来ている飲食店も所々に有り活気を感じた。
- 評価A◆路地の奥に隠れ家的なレストランがひっそりある大いに企画意欲をわかせる空間で、神楽坂ならではの。
- 評価A◆お店が開く前だったからか、ゆっくり散策できて良かった。神楽坂といえばやはりここのイメージ。
- 評価A◆とにかく楽しい空間でした！
- 評価A◆一人では入りそびれ見落としていた横丁がある、今回のハイライトでした。以前、カフェの店主が「原発事故後、フランス人は相当いなくなりました。今ではイタリア人が増えた」と言っていたのが記憶に残った。そんな中で、四半世紀前に訪れたクレープ屋がまだ頑張っていたのがうれしい。
- 評価A◆驚きと発見のひとことです。知らなかった。「芸者遊び」など想像もつかない昔の贅沢ですが、いまでもかろうじてその余韻が引き継がれているのですね。「粋な黒塀、見越しの松に」を口ずさんでしまいました。死ぬまでに一度、神楽坂で芸者遊びをできる「旦那」になってみたいなあ。叶わぬ夢でしょうが。
- 評価A◆新しいお店が増えています、お風呂屋さんを発見したり、迷路のような路地を歩く楽しさは健在。しかし道に迷って方向がわからなくなった時、背景にそびえる高層マンションで位置を確認するのが悲しい。
- 評価A◆石畳と黒塀の路地はとても素晴らしい空間。しかし、建て替えが進むにつれて路地が徐々に拡幅されており、本来の良さが徐々に失われつつある。
- 評価B◆神楽坂地区のイメージとして定着している石畳と黒塀による路地空間、テーマパーク化している感じはありますが、これはこれでクール。
- 評価B◆神楽坂の路地は、私たちが飲食を楽しむに迷い込むにはいいところだ。一種のテーマパークみたい。都市機能へのアクセスがよくて、お風呂屋さんもあるし、住んでも便利かもしれない。でもやはり道が狭く、坂が多く、燃えやすそうで、怖いという気持ちは抑えられない。
- 評価B◆細佳路の密集した地域である。地区計画により用途、高さ、壁面線等制限を設け、建築物の意匠、石畳の設置等を定め、地域性を活かしたまちの安全性と景観形成を図っている。
- 評価B◆写真で見ていた景観が連続していると思っていましたが、一部だったのが意外でした。路地空間の作り方に、もう少し意思を働かせることができれば良くなると思いました。
- 評価B◆神楽坂の表通りしか知らなかったのでびっくり。路地にもいろんな店があるのですね。



神楽坂かくれんぼ横丁の石畳と黒塀の景観



酔石横丁から兵庫横丁へ抜ける路地の階段

5 ■赤城神社+あかぎカフェ

評価:3.50 内訳:AAAAABBBBBBBBBBC

- 評価A◆社殿を現代風に建替え、境内地を70年の定期借地権付分譲マンションとし、低層部を社務所、カフェとしている。境内地の緑が生き建物のデザインがいい。
- 評価A◆再構成された神社の広場が、カフェも相まって、とても心地の良い広場空間になっている。
- 評価A◆社殿を建替えてマンションを併設しているが、広い階段を設けて神社の格式を高め、その下に集会用ホールなど諸施設を効率的に収め、マンション1階には社務所やカフェが入って境内に賑わい感を出すなど、空間の価値を高める建築計画上の工夫がとても秀逸。(小屋みたいな昔のあかぎカフェが立派に再生！)
- 評価A◆一人の際も神社の前まで来たが、カフェの方まで入るのは初めて。こんなに洒落なスポットとは驚き。
- 評価A◆神社、カフェとその上の住宅でつくる空間は魅力を感じました。住宅の手すり？のデザインはユニークで良かったです。
- 評価B◆神社にマンションを併設しているが、1階部分をカフェにしていることやデザイン的な工夫によって、あまり違和感はない。
- 評価B◆境内が広々としていて開放感があるし、眺望も良い。

評価B◆テラスからの眺めが丘の上を感じられてよい。

評価B◆ちょっと新しい都心の神社空間。

評価B◆神社と思えない建物。神楽坂らしい神社なのかとも思いました。

評価B◆神社が、その境内を時限的に不動産利用して管理費等を捻出する手法は、しばしばみられるようになった。(集合住宅・カフェの建築物の評価は微妙。)明治神宮外苑も時限的活用することにすればよかったのに。赤城神社前の参道がにぎやかになっていて好感。

評価B◆定期借地権であかぎカフェの入る集合住宅が誕生しているのは、神社敷地の活用事例として興味深い。隈研吾設計のデザインは、神社建築形式の現代建築としての提案だと思うが、どうしても違和感がある。

評価B◆神社の建替えは、どこも悩みの難問のようです。西小山の「小山八幡神社」の建替えで、敷地の大半をマンションにしてしまう事態のご相談をいただいています。なんとか建築確認に嫌がらせをして、引き延ばせないかとのお申し越しでしたが、お手上げです。定期借地権で言い訳をするのは、とりあえず社殿の景色が保たれているので、許容範囲でしょうか。敷地に多少の余裕があつて良かったですね。

評価B◆赤城神社の外壁の木材は、式年遷宮のように20年毎に新しくしてほしい。

評価B◆訪問日はあかぎカフェが休業していたため、様子が判らず、でした。

評価C◆下から赤城神社を見上げる景観は良かったです。



モダンに建替えられた赤城神社（2010年/隈研吾）



境内に設けられた集合住宅（1階に社務所とカフェ）

6■新潮社+ la-kagu

評価:3.88 内訳:AAAAAABBBBBBBBBB

評価A◆店内は大規模にリノベされていてとても清潔な雰囲気。外部は広いウッドデッキ及び階段で一体化されていて機能的にも秀逸。気候の良い時は外が気持ち良さそう。

評価A◆人がいっぱいいた。人がたくさん集まってまちの賑わいにつながっていれば、内容が特にひどくない限り高評価になる。高低差のある敷地の扱いがよかった。また、お米という視点が珍しかったが、本来の生業を活かして本屋さんならなお好ましかった。

評価A◆la-kaguによって交差点空間に広がり集い空間を創出したことは素晴らしい。

評価A◆通りに開かれ、街の広場的になっていて良かった。マンションにならずその街の雰囲気を活かしている。

評価A◆市街地の中に、リノベーションによって楽しい空間を提供できている。

評価A◆ローコスト建築で建物そのものはこれといったところはありませんが、外部の階段、特に道路面から、カーブし、幅を変えながら上に向かっていく構成は優れていると感じました。

評価A◆品揃えが豊富で、見とれてしまいました。九谷焼の小さな器は魅力的でした。お値段が三割以下なら買いましたが、高すぎます。「箸置き」のひとつでも買いたかったのですが、『終活』『断捨離』を念頭に日々を過ごす我が身には、やはり「モノ」を増やすことはできませんでした。

評価B◆神楽坂駅から木製デッキで商業施設 la-kagu へつながっている。新潮社の倉庫をリノベーションした la-kagu は建物、内部店舗配置、商品ともデザインがよい。

評価B◆la-kagu は倉庫のリノベーションだが、屋外に広い階段をつくることでイメージを一新させている。中のテナントもセンスが良いが、新潮社のイメージはあまり感じられなかった。

評価B◆低層商業施設のまちに開いたデザインは好感がもてる。冬場の外部区間の活用は、難しいか。

評価B◆神楽坂を上ってきて、このあたりが散策の終点になるとすれば、一息つくにはちょうど良い。

評価B◆交差点からウッドデッキが見える仕組みは楽しいです。

評価B◆とにかく目につく建物です。大分県産品も2、3発見しました。

評価B◆地下鉄駅前の交差点に面して広場と商業施設を設けて街の賑わいに寄与しているが、広場の階段デッキが歩きにくく、中の商店もいかにも一般ウケ狙いで、新潮社らしい独自性が乏しいのが残念。

評価B◆楽しい施設ですが、入口の大きな階段を見ると入るのを躊躇してしまうのは歳のせいでしょうか。



神楽坂駅前にウッドデッキを設けた la-kagu



道の両側に並ぶ老舗文芸出版・新潮社の本社ビル群

7■上記6施設のほかに、印象に残った場所など

文京シビックセンター展望室★神田川沿いの低地とその彼方の新宿新都心の地面の高みが俯瞰できた。

北野神社★都会の真ん中にひっそりと佇む神社。石段からの眺めも印象的。

文京区立第三中学校★小石川三井家の東京本邸跡地とのことですが、とても趣ある入口に見とれてしまいました。

川口アパートメント★住宅街にひっそりと存在するビンテージマンション。

川口アパートメント★お洒落な有名人が住んだ1969年建築の高級マンションが、今もなお現存する素晴らしい。

地下鉄丸ノ内線の地上部分★地下鉄なのに普通の地上を走っている光景に、いつも驚かされる。

旧同潤会江戸川アパート再開発★格調あるマンションに建て替わっているが、歴史的な面影がないのが残念。

小さな印刷会社のあるエリア(元同潤会アパートの前の道)★小さなレストランやカフェなどヒューマンな感じ。

絵本CAFEボローニャ★開いていれば入りたかった。

絵本CAFEボローニャ★以前から気になっていたが、Hさんのお知合いの関係とはびっくり！

ギンレイホール跡地★移転して再開する可能性があるとは知らなかった。移転するなら応援したい。最近ミニシアターがどんどん閉館になっていて、クラウドファンディングで生き残りを図る館もあるが、一過性のお祭りで継続性がない以上、一時しのぎでしかないので、閉館はやむを得ないのかもしれない……。

神楽坂見番★モダンな感じが良かった。

神楽坂見番★今も残って機能していることが、この街のアイデンティティを感じさせる。

熱海湯★昔ながらの銭湯が残っているのがいい。

熱海湯・第三玉乃湯★廃業が続く銭湯だが、都心部の神楽坂で2カ所も営業している。今度、利用したい。

階段群★第三玉乃湯裏の変わった手すりのついた階段(駒坂)、早稲田通りからUNPLANIに降りる敷石の階段など、趣き深かった。

伊勢藤(酔石横丁)★昭和の居酒屋がまだやっていることに感動。

神楽坂通り北から赤城神社まで★尾根道で喧噪を外れ、自然発生的なお店(小さな花屋など)が並び、散策が楽しい道になっている。

エルサレム形のない図書館★存在を知らなかった。イスラエル人らしい取組。

エルサレム形のない図書館★建築家の思いが説明されていて、有意義だった。インスタレーションがすでになく、椅子だけだったのが残念。

新潮社の本社ビル★通りの両側に風格ある建物が同じデザインで4～5棟並んでおり、まるで全集本を思わせる。文化産業として曲がり角の出版業界の未来を考えると、la-kagu などやってる状況ではないと思うが。

シェアハウス矢来町★倉庫?なんだ?

シェアハウス矢来町★中に入ってみたかったです。

UNPLANI神楽坂★住宅地の中にある意外性のあるカフェ、ホテル。調べてみたら、結構高い料金。

神楽坂「からり」★反省会・新年会(一次会)の会場。安くて暖かくて美味しくて、大満足しました。

東京メトロ神楽坂駅★一次会の会場から入口までは直近で良かったのですが、膨大な高低差には参りました。

東京メトロ飯田橋駅★東西線から南北線に乗り換えたのですが、歩行距離も実に長く、経路に悩まされました。



神田川北岸の小石川台地にひっそり鎮座する北野神社



建替えられた同潤会江戸川アパートメント(2005年)



惜しまれて閉館した名画座・飯田橋ギンレイホール



神楽坂の裏手で営業を続ける銭湯・熱海湯

8 ■今回歩いた範囲の小石川・神楽坂の街(全体)について 評価:4.25 内訳:AAAAAAAAAABBBBBB

評価A◆ここも神田川を挟んで両岸がそれぞれの特徴を持って成っている事が判った。神楽坂の街はいつも通りに大勢の人で賑わっていたが、中心的な施設は見当たらないため、まち全体の魅力で人が集まっているということでしょうか。

評価A◆東京内部市街地のこのエリアは、住宅地に学校、オフィス、文化産業等が多数立地し、また神楽坂は、大規模施設が無いのに有数の繁華街となっている。その中で印刷博物館+ギャラリー、赤城神社+あかぎカフェなどの試みは、そうした施設と街の新しい関係を模索しているように感じて、好感が持てた。

評価A◆住宅地としての落ち着きと、絶妙インフィルされたリノベーションや店舗、神社などの混ざり具合が絶妙。途中にいくつも中層のマンションがあったが、住んでみたいと思った。

評価A◆神楽坂の路地景観や理科大のキャンパスづくりが好印象でした。

評価A◆神楽坂はいつ行っても新しい発見がある場所です。街歩きだけでなく、実際にレストランなど施設を利用してこそ良さがわかるのでしょうか。

評価A◆ほとんど行ったことのない神楽坂を探索しました。銀座・原宿・六本木の今風の流行りとは違う街を見せて頂いて大感謝です。昔の片鱗が残っている東京の懐の深さを垣間見ました。「小石川」を再認識しました。

評価A◆ひと昔前は夜に食事にしか行かない神楽坂でしたが、細い路地は健在で多くの観光客も訪れる昼間も楽しいまちになったことを実感しました。防災経路もしっかり計画されていて、神楽坂を趣のある価値あるまちにしていこうという意識の高さを感じました。

評価A◆大人の遊び場がいっぱい。特に飲み屋。にもかかわらず昔に比べると物価が上がりすぎあまり自分は遊べない。悲しい……。

評価A◆今回歩いた界限は、飲食をし、ほろ酔い加減でそぞろ歩くには大変良いところである。簡単に行けるし比較的安い。しかし本来の価値は、そういったコスパ、タイパを越え、猥雑を内包できる東京という大都市の寛容にあると思う。それは文化だと思う。

評価A◆高低差が歩いていると体感としてわかるが、景観(視角)として感じられなくなっているのが残念。

評価B◆神楽坂の路地は楽しく、周辺は楽しい施設が増えつつあり、動いている都心だと改めて感じました。

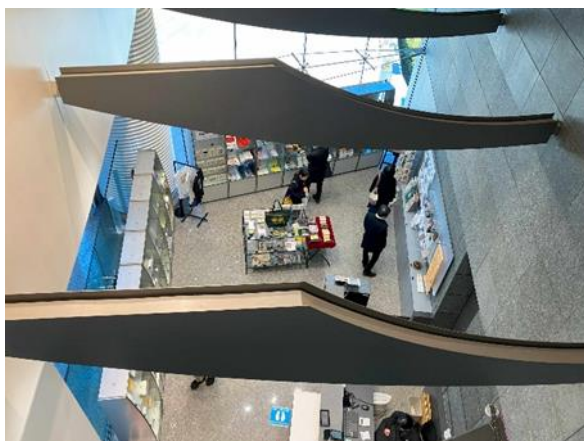
評価B◆神楽坂の知らなかった面が見られて有意義でした。

評価B◆都心部にありながら、生活感のあるまちを形成し、デザインに優れた建造物が更に魅力を高めている。
評価B◆印刷工場と関連施設が点在していたまちと、華やかな観光地化したまちの差異は面白かった。
評価B◆神楽坂は久しぶりだったがこんなに観光地化していたとは驚いた。他方、小石川界隈の起伏に富んだ閑静な住宅街は対照的で、どちらも面白かった。
評価B◆神楽坂はとてもいい街だと思うが、小石川の今回歩いた部分に関しては街のイメージがあまり見えてこなかった。

9 ■今回は既存の大規模組織が併設した新しい施設を中心に巡りましたが、

こうした試みが街の魅力向上につながるためには、どのようなことを考えれば効果的でしょうか？

- 企業などが併設する施設の重要な役割は、その企業と地域とを結びつけることだと思う。企業と地域との交流によって何か新しいものが生まれてくれば、それが街の魅力向上につながるのではないかな。
- 新たに付加される建築物が、周囲をリスペクトしながら景観的にも内容的にも街の新たな一要素として加わることをどれだけ意識できるかにかかっていると思います。
- 大規模組織が併設する新しい施設はまちの魅力発信に大きく関わるので、これからのまちづくり方針等とすり合わせ新設することは必須ですね。
- やはり地域に開かれた施設となる様に考える事でしょうか。その街と一体化された施設は利用する側にとっても楽しい施設になるはずです。
- どこにでもある店舗を誘致するのではなく、その場所の雰囲気にあう質の高い店舗を選んで誘致／入れること。町内会やまちづくり協議会との連携も必須。
- 東京理科大学の、これらの事業を推進された当事者の方々に、その目指すところと今日の状況についてのご見解を伺ってみたいです。新潮社については、それなりの狙いと成果についての判断を伺いたいですね。いずれにしても、こうして現実に賑わっておられるということが、評価としての現実なのだと思います。
- 新しい施設が外に開いて、街に影響を及ぼすと良いのですが、それぞれで集客が必要なため、難しいですよね…。
- お金のない若者はそんなに利用できないのでは？ といえその施設の問題ではないと思うが…。
- 飲食店ビルにするのではなく、TOPPAN のギャラリーや la-kagu のように自由に出入りできるスペースがあると良いと思う。
- 月並みですが、コンセプトをはっきりさせ、複数の分野の方々とコラボする体制をつくることでしょうか。
- 街に開いたデザインが、建築デザインとしてのハードはもちろんのこと、運営や仕組みなどのソフトも重要だと感じた。
- 公開空地のまちとの連携。元来の地形を意識できる開発を。魅力アップの要素としてその街らしさや暮らしの個性を前提とした開発というのは必要なかどうなのか、必要とするにはどういう表現がよいのだろうかなど考えました。
- まちの連続性が重要で、個性的過ぎると魅力がなくなる。神楽坂という歴史性とリノベーションに期待できる地域である。
- その企業が本気になって、本業の意義や仕組みを分かりやすく一般の人に伝えようとする施設には迫力があるので、地域の文化性の向上にも寄与すると思う（凸版印刷の博物館やギャラリーのように）。
- 新しい施設には、大して感銘を受けなかった。これらの「新しい施設」が「新しい」という形容を捨てて街に溶け込み、早くその一部になることがよいと思う。



凸版印刷ギャラリー併設のミュージアムショップ



赤城神社境内の集合住宅に入るあかぎカフェと社務所

10 ■今回の企画全体に対する感想など

- 今回歩いた中では、有名建築家が手掛けた施設よりも、神楽坂の路地空間の方が圧倒的に街として魅力的。なかなかTEKU-TEKU的なまち歩きでした。(KT)
- 小石川周辺は、高低差によって春日など徳川関連の住宅地エリアと「太陽のない街」のような印刷会社と左翼的労働者のまちという、戦前というか昭和のまちイメージでしたが（ちょっと感覚古い？）、いろいろな開発によって街がきれいになった分、街の個性や生活感が薄れてきているなと思いました。神田川の上の高速道路が地中化されて無くなるとよいかなと思います。(HH)
- 小石川は自分が住んでいるエリアです。今回のまちあるきで知った場所も多く、TEKU-TEKUの主旨のとおり、まちの魅力を発見し、自分の住んでいるまちが益々好きになりました。(NR)
- 知らなかった神楽坂の一面を見ることができただけでなく、気になっていたお店にも入ることができ、充実した街歩きでした。(YE)
- 神田川沿いの地形の変化と、そこでの街づくりの取組を知れるとても楽しく為になる企画でした。ありがとうございました。(HM)
- 当日、皆様と一緒に歩けなかったのは残念でしたが、後日に何とか回って来ました。素人ゆえ、説明なしでは見る事もなかなか難しかったです。(FMI)
- 「神田川シリーズ」の3回目なのですが、あまり川を意識せず、傾斜面の市街地を歩かせていただきました。あらためて「小石川」の地域を考える機会になりました。反省会で、「Mさんもコーディネートを」とお話をいただき、あらためて横浜・鶴見・川崎地区のまち歩きについて思いを巡らしています。遠からず、コースのご提案ができればうれしいと考えています。(MT)
- 住宅地TEKU-TEKUの3部作、どれも見ごたえがありました。住宅地だけに普段歩きませんが、実際に行ってみるととても素敵な空間が広がり、また新しい要素も加わっていたりして、まちの成熟と良い意味での変化を感じることができました。3部作、とても気づきの多い楽しい企画でした。ありがとうございました。(FMa)
- いろいろなまちの風景を通して見られて楽しかったです。(IY)
- まち歩きの王道のようなコースで楽しかったです。(YJ)
- ありがとうございました！(UT)



小石川地区／凸版印刷本社ビル・公開空地にて

コーディネーターより■今回の企画は、昨年8月の落合中井のアトリエ建築巡り、10月の目白台早稲田の文化施設群に続いて、3回目の神田川沿いのまち歩きで、テーマは大組織による施設併設したが、結果的に神楽坂界隈の新旧空間を訪問するのがメインになりました。幹線道路沿いは高層化が進んでいますが、地元の企業・大学・神社等による施設併設型の控えめな開発や、路地の景観を保全する地区計画はユニークですね。一方で、小石川地区についてはあまり歩けませんでしたので、今後別の機会を設けられればと思います。今回も大勢の方に参加していただき、大変ありがとうございました。(OR)



印刷博物館



酔石横丁



UNPLAN 神楽坂